

# 『夢新聞』作りを通したキャリア教育の実践事例

辰野町立辰野南小学校 前原 修

「2011年度に小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう(米デューク大学 キャシー・デビットソン教授)」

これまでにキャリア教育の研修会等に参加して、これから先の時代はAI・ロボットの急速な発達に伴って、30年後には現在ある職業の47%が自動化になるだろうといわれています。これからは知識を増やすことではなく、知識を活用したり、仲間と協働して創造力を働かせたりすることが大事です。

子どもたちが主体的になって仲間と協働し目的を達成する成就感を味わってほしいと願い、昨年度6学年の子どもたちに、『夢新聞作り』を体験する機会を計画しました。

## 「夢新聞」とは

自分の夢が叶い、自分の活躍を伝える未来に出される新聞。未来の日付を入れ、記事は全て完了形で書く。

自分の大好きなことや得意なことを夢にしたり、自分の夢が叶ったことで喜んでくれる人の姿を書く。親からの応援メッセージも書いてもらいます。

実施時間は、約2時間30分

## 講師：米澤晋也さんの紹介

1971年長野県生まれ。

一般社団法人ドリームペーパーコミュニケーションズ代表理事

有限会社共和堂代表取締役

家業の新聞販売店を継いで、地域に愛される新聞店を運営されながら、「夢新聞プロジェクト」を結成。全国の学校や企業等に足を運び、講師としてご活躍。門下生の講師の育成にも取り組み、現在では、7700人を超える人が夢新聞作りに参加、また全国に夢新聞の講師がいる。

## 夢新聞作り開始!

日時：平成29年 2月14日(火) 13:30~16:00

講師：米澤晋也さん 他スタッフ4名

### ミッション発令

### ◇65分間で、全員が夢新聞を完成させること!

序盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ まだまだ時間に余裕があるせいか、特に焦ることもなく、夢新聞作りに取りかかる子が多い。</li> <li>◇ すぐ書き始める子、いろいろと考えたり迷ったりして、何も書いていない子、友だちと相談しながら少しずつ書くことが決まってくる子等、子どもたちの様子は様々。</li> <li>◇ 事前の約束を守って、米澤さんや担任には何も質問はしない。</li> </ul>
中盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 順調に書き進める子、ようやく書き始める子がほとんど。</li> <li>◇ 何をかくかまだまだ決めかねている子の中には、少しずつ焦りが出てきて、米澤さんや担任に迷っていることを質問してくる子が出てきた。(米澤さんや担任は×のジェスチャーをして答えない)</li> <li>◇ 順調に進んでいる子の中には、まだ何も描き始めていない子に対して、駆け寄りたり心配する子がいた。</li> </ul>
終盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 何もかいていない子は、時間が残り30分くらいになった頃から、ようやく決断して書き始めるが、間ちがえたり絵が上手く描けなかったりしてなかなか思うように進まない子もいる。</li> <li>◇ 時間に余裕を持って完成させることができた子が出始める。まだ書き終わっていない子のところへ駆け寄り、アドバイスしていた。</li> <li>◇ 残り時間がさらに少なくなると、一緒に手伝う子も出てきた。</li> <li>◇ 完成したこが次第に増え、書き終わっていない子の周りに集まってくるが、人数が多すぎて手伝うことができないので、声を出して応援を始める子もいた。</li> <li>◇ 残り1分くらいで全員完成!自然と歓声が上がった。</li> </ul>

## キャリア教育の視点から見た「夢新聞」

### ◇「自己理解・自己管理能力」

- ・ 現在6年生である自分が今「できること」、将来「したいこと」について、今後の自分自身の可能性を肯定的に考えた。「夢新聞」は夢を叶えた自分自身を取り上げた新聞であるが、夢実現までの過程をシュミレーションしたり前向きに考えたりすることで、今後の自分自身の成長を肯定的に捉え、主体的に行動しようとする気持ちを高めることになった。



### ◇「他者理解・傾聴とアサーションスキル」

- ・ クラス全体に与えられたミッションを達成しようと、子どもたちは自分自身の夢新聞作りだけでなく、友だちの夢新聞作りにも目を配ったり耳を傾けたりしていた。時間に余裕を持って終えることができた子どもは、まだできていない友だちのところへ駆け寄り、様子を見守ったりアドバイスをしたりしていた。友だちの夢を理解した上で助言していた。その言葉には、友だちの夢を理解し、相手を傷つけないように配慮していた。





- ・ 夢新聞作りは親からの「応援メッセージ」の欄がある。保護者の方には事前に「応援メッセージ」の内容を準備していただくように依頼してあった。夢新聞作りが始まってしばらくした後に、親子で進める時間があった。子どもたちは親からの温かいメッセージを目にして、夢実現のためにさらに前向きな気持ちになったり意欲を高めたりしていた。



### 親からのメッセージ

- ◇ 君がどんな夢を見つけ、それに挑戦しようと思うなら、家族であなたを全て支えます。あなたの成長に役立つなら、みんなでたくさんの協力をしますので、困難を乗り越えていって、頑張ってください。
- ◇ お父さんとお母さんは、〇〇のことを一番知っている最強の応援団です！！何でも頼ってください。何でも言ってください。必ず応援します。これからの大きな壁も3人で立ち向かっていくぞ！！
- ◇ 〇〇の夢は家族みんなの夢。小さい頃から保育さんになりたいと言ってたね。今も変わらないその夢。叶えられるように応援しているよ！！困ったときは振り向いて。家族みんなが味方だよ！！あいしているよ！
- ◇ 〇〇の努力を知っている。〇〇の闘志を知っている。自分の夢に向かって頑張れ。ママが一番近くで応援しているよ。
- ◇ どんな夢でも信じ続けて努力し続ければ、必ず叶えられると思います。どんなこともいい加減に済ませることなく、手を抜くことなく頑張ってきた〇〇なら、これからも夢に向かっていけると信じているよ！
- ◇ 夢に向かって楽しそうにがんばる姿にお母さんも励まされてます。大変なこと、つらいこともあると思いますが、あきらめない心を持ち続けてください。がんばれ！



## 感想

小学校最後の授業参観日に「夢新聞」作りを行った。大人への階段を少しずつ上っている子どもたちにとって、将来の自分の姿を描く機会を与え、友だちや親からも認められることは大事だと考えた。

子どもたちとしては、クラスとしては、ミッションを与えられたことにより、全員でそのミッションを達成しようとそれぞれの立場で自分の果たす役割を見つけていた。結果として、ミッションを達成し、全員で達成感や満足感を味わうことができた。

親としては、子どもの夢実現に対して応援メッセージを送っていただいた。夢新聞の中に応援メッセージが位置づけられることで、子どもたちにとっては貴重な夢新聞となった。

また、保護者は途中から別室で、「子どもが生まれた時、健やかに成長したこと」を振り返るビデオを鑑賞した。我が子の成長をしみじみと振り返っている最中に、サプライズで我が子が目の前に立っている場面に出くわす。そして、我が子から感謝の手紙を読まれ、我が子の成長をあらためて喜ぶことができた。涙を流す親がたくさんいて、子どもたちも微かな表情をしながらもとても嬉しそうだった。